

15. 中・高校生から成人、高齢者まで、学びと学び直しを求めている人を支援するボランティア活動

グループ名 我孫子自主夜間中学 “あびこプラス・ワン”
代表者 相澤 裕寿

I 活動の目的

「自主夜間中学」「あびこプラス・ワン」の目的は、学びと学び直しを求める方を支援し、共に基礎的な学習を行います。授業料は徴収しません。

対象は、義務教育の学習が十分受けられなかった方、不登校や障がいなどで学習の機会が失われたり遅れがちな方、また新たに学びを求める方など、年齢や国籍は問いません。

スタッフはボランティアで、学歴や教える経験の有無にかかわらず、共に「学び合う」気持ちで活動しています。毎週の会場確保や、スタッフ同士の教え方の交流や、運営に関わる会議なども、スタッフの重要な活動の一つです。

2 活動概要

(1) 全体の活動

2013年開講後、我孫子自主夜間中学“あびこプラス・ワン”の活動は二年目となり、ご支援いただいた御蔭で週1回火曜日の教室は二年間で100回を超えました。また、市内の第二教室をめざし、本年8月に金曜日の教室を開講しました。（写真3）

昨年フリーマーケット（写真1）などで財政活動を行いながら、当ボランティア助成金お申請を行い、受給が認められ私たちにとって大きな励みとなりました。

(2) 参加者生徒、スタッフの活動状況

活動は中学校レベルの「学習」が主な目的であり、生徒とスタッフは個別な学び合いを行います。これまで登録者は生徒約50名、スタッフは40名おり、参加者は二教室合わせて、生徒20名前後、スタッフも25名前後で、生徒には中学生が7人、高校生3人、成人5人（高齢者1人）、外国人も7人位おり共に学んでいます。（写真2）

(a) 中学生、高校生には現在不登校中又はその経験者も多く、他人との対応が不得手な子どもや、当初はプラス・ワンの教室の入口をくぐることのできなかつた生徒が、スタッフとの個別な学習に参加しています。中には学習そのものへの拒否的な感情の強い生徒がいますが、学習の外に保護者との相談等も行っています。

また、学力の高い中学生で、塾へ通う事の出来ない生徒もいます。この4月には6人の中学生が高校に合格し、不登校などの経験を乗り越えて現在高校へ通学し、その後も“プラス・ワン”へ続けて通う生徒もいます。

(b) 成人は、中学程度の英語、数学などの様々な学び直しを求める方がおります。「子育てが終わったので昔の勉強をもう一度やりたい」「孫と英語の勉強をしたい」「パ

ソコンのローマ字入力ができるようになりたい」等様々な要望があります。私たちは学歴等に関係なく共に楽しみながら学び合います。軽い障がいのある方で、ヘルパー資格取得を目指す方や漢字検定を目指して勉強する方もいます。

(c) 外国から来て間もない方々の日本語支援も行っています。現在中国やネパール、フィリピンなどから来られた方が7～8人います。小学校1, 2年時に来日し現在中学1年になるペルー人の生徒がいて、話は出来ても、読み書きがほとんどできないで学校生活を送っていました。本人は1年間私たちの教室へ通い、それ以前に比べて積極的な学習への姿勢をみせるようになりました。

(d) 学習の他に教室の活動として、「交流会」(12月)、「桜の会」(3月の送別・門出の会)を企画し、暮れは各自一品料理持参、飲食費自己負担でパーティをおこないました。3月の「桜の会」には、スタッフ及び、生徒の家族を含め43名の参加となり、会費は自己負担により盛況に行われました。(写真4)

(3) ボランティア・スタッフと学習スタイル

スタッフには、小中高の教師や塾の指導経験者だけでなく、元会社員、新聞記者経験者や臨床心理士、主婦などいろいろな方がいます。常時活動に参加するスタッフは、登録者40名の内、けやき教室14、5人、第二(湖北駅前)教室は9、10人です。

私たちは、お互いの指導法を尊重し、「詰め込み」とは違う“学び”や“学習”となるよう、スタッフ同士の情報交換も日常的に行っています。

スタッフ会議が毎月、もしくは隔月にあり、そこで運営に合わせて、生徒一人ひとりの学習の問題が話し合われます。スタッフ会議と事務局会議がこの一年で5回ずつ開かれ、学習指導や、財政問題、第二教室開講準備等が話し合われました。

私たちの指導は一斉授業とは違う個別学習であり、スタッフを希望される方の中には一斉「授業」との違いに戸惑い、登録を辞退される方もいます。また学校と同じように時間割があり教壇の上から教えてくれると考えて見学にくる人もいます。

学習は基本的に生徒の学びたい内容に従って、スタッフが一緒に学びに“伴走する”というのが私たちの考えです。

第二教室の「共同開催」の中で、市内の社会福祉法人「つくばね会」からは障がいのある方の指導の専門のスタッフが加わり、プラス・ワンの「学習」は一層幅のあるものになると考えています。

(4) 第二教室「湖北駅前教室」を開講

第二教室は私たちの念願であり、地域に複数の教室を開き、学びに躓いたり“おくれ”がちな中・高生や、学び直しを希望する大人にとって自由に新しい“学び舎”として立ち上げたいと願っています。将来は市内6箇所のJR「駅前教室」の夢もあります。

「第二教室の開講は、市内「つくばね会」より、成田線湖北駅前の施設の提供の申し出があり、1月より協議を続け「共同開催」となりました。6月より“トライアル”として開講し、8月21日正式な開講式を行いました。開校式は、生徒・スタッフに加え

て市関係者も7人の出席があり、30名の参加者による開講となりました。

宣伝は、広報、地域紙等の掲載と、ポスター、チラシの市内各駅、近隣センター、公民館、市民団体等への配布や掲示を行いました。また、朝日新聞の千葉支局の取材があり、教室の様子が開講当日の朝刊に大きく掲載されました。(写真5)

(5) 今後の課題について

両教室開講となり、マスコミの影響もあり、問い合わせや新しい参加者が続き、あらためて“スタッフの充足”が課題となっています。また、私たちの活動への理解や協力を得るためにも地域の様々な人たちとの連携も一層必要になっています。

不登校関係の団体や専門家、外国人や障がい者の支援団体や学校や地域の子ども「相談員」の方々、教職員団体等との情報交換を続けていきたいと思っています。

また生徒やスタッフ募集に関して、我孫子市の社会福祉課や市民活動課の協力があり、私たちは市役所、社会福祉協議会等との連携を続けたいと考えています。すでに市の社会福祉課より「学習支援ネットワークづくり」への参加が求められています。

財政的には、今年度我孫子市の「公募補助金」を受給できることになり、活動費用全体の半額(交通費の半額に該当)が補助されます。しかし来年以降は未定であり、「支援する会」(仮称)を立ち上げる等、何らかの財政活動を考えなければなりません。

私たちは、「学習」があらゆる人にとって生きる力の“根っこ”となると考えています。学習が“満たされる”ことが生きる力を生み出す源です。しかし、小学校から始まる学校教育では、現実には競争学力の獲得や“順位”等が重視され、生きる力＝“誰にも学力をつける”という課題は見失なわれつつあります。それどころか学ぶことを拒否したり、学校を恨むような事件も続いています。そこでは、生きるのに必要な力を育てるのではなく、“奪う”ことにもなっているのではないかと危惧せざるを得ません。

あらゆる人にとって、学ぶことが生きる力を生み出す元であるとしたら、そのことに貢献できることは、私たちにとっても大きな喜びです。

<資料写真>

1) フリーマーケット



2) けやき教室



3) 湖北駅前教室(8月開講)



4) 3月「桜の会」

5) 朝日新聞 8月21日朝刊



3 決算報告書

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000円
支出 (内訳)		
1	会場費	18,600円
	10月より会議室等の使用料420円×30回分他	18,600円
2	交通費	46,760円
	10月より3月分まで 10人分26回 (片道代)	36,240円
	湖北教室開講準備会議 5月～8月開講日まで11回分 (5人分)	10,520円
3	学習交流、会議費	5,344円
	生徒、スタッフ交流、会議湯茶代補助 一人100円	
	約20人 12月及び3月 (2回分)	5,344円
4	事務用品	29,296円
	チラシ印刷 「ネットプリント」注文1000部	5,220円
	プリンタインク6色カラーセット×1、黒3ケ	9,301円
	印刷用紙500枚×4回 (資料、会場案内等配布物)	1,619円
	カード代 (1000円×2枚) ポスターコピー代	3,200円
	中学校1, 2年用教科書および資料代 8冊分	8,976円
	自主夜間中学あびこプラス・ワン 角印代	980円
支出 合計		100,000円